



スパークス東方投資見聞録

第28号

発行日:2010年6月1日

ファンド・オブ・ヘッジファンズ業界の現状

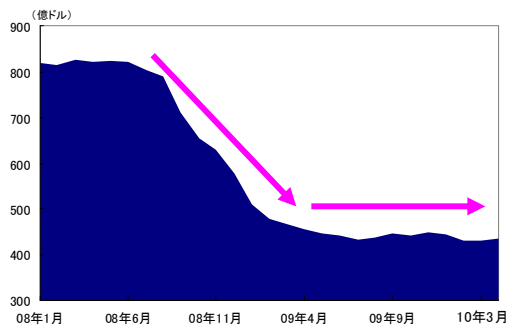
ハイライト:

- ファンド・オブ・ヘッジファンズ業界の現状
- アジア・ヘッジファンド・アワード2010
- 最後に

ファンド・オブ・ヘッジファンズ業界の現状

ファンド・オブ・ヘッジファンズは、複数のヘッジファンドに分散投資するファンドで、弊社ではアジアのヘッジファンドに分散投資するファンド・オブ・ヘッジファンズを運用しています。ユーリカヘッジによれば、2010年3月末、世界のファンド・オブ・ヘッジファンズは、3124本で運用資産残高は約436億ドルと発表されています。同業界は、年金基金や機関投資家、また富裕層など、「伝統的運用からオルタナティブ運用に資金を振り向けたい」、「下落に配慮しながら世界に分散投資したい」、「ヘッジファンド調査のプロに運用を任せたい」といった投資家の様々なニーズを捉え、2000年以降急速に拡大しました。こうした動きは、世界的な金融危機のあった2008年まで続きましたが、その後は世界的なリスクマネーの収縮による大型解約や運用成績の劣化などから縮小に転じ、この傾向は2009年中旬まで続きました。

世界のファンド・オブ・ヘッジファンズ
運用資産残高
(2008年1月～2010年3月)



出所：ユーリカヘッジ

しかしながら、同業界の運用成績は、既に2009年前半から改善しはじめており、現状、横ばいに推移している運用資産残高も近い将来、回復してくることが予想されています。

アジア・ヘッジファンド・アワード2010

2010年5月20日、シンガポールにてユーリカヘッジ主催のアジア・ヘッジファンド・アワード2010の授賞式が開催されました。300以上のアジアのヘッジファンドの中から2009年、及び2010年第1四半期の運用成績やリスク・リターン特性、その他定性面などに対する厳正な審査のもと、受賞ファンドが決定されました。

アジア・ヘッジファンド・アワード2010受賞ファンド

アジア・ヘッジファンド部門	Segantii Asia-Pacific Equity Multi-Strategy Fund
アジア(日本除く)・ヘッジファンド部門	HT Asian Alpha Amoeba Fund
グレーターチャイナ・ヘッジファンド部門	Northwest China Opportunities Fund
日本・ヘッジファンド部門	Prowess of Japan Fund
インド・ヘッジファンド部門	HSBC India Alpha Fund
シンガポール・ヘッジファンド部門	Riley Paterson Asian Opportunities Fund
ニューアジア・ヘッジファンド部門	Serica Credit Balanced Fund
アジア・イベントドリブン部門	Macquarie Special Events Fund
アジア・マクロ部門	KC Asia Fund
アジア・株式ロングショート部門	HT Asian Alpha Amoeba Fund
アジア・マルチ部門	Segantii Asia-Pacific Equity Multi-Strategy Fund
アジア・レバティフバリュエーション部門	Regal Amazon Market Neutral Fund
アジア・CTA/マネージドフューチャーズ部門	CSL Global Commodity Fund

出所：ユーリカヘッジ

以下、いくつかの受賞ファンドについて、ご紹介させていただきます。

Segantii Asia-Pacific Equity Multi-Strategy Fund

Segantii Asia-Pacific Equity Multi-Strategy Fund は、アジア・ヘッジファンド部門とアジア・マルチ部門の2つの部門でアワードを受賞しました。当ファンドは、2007年12月に設定されたケイマン籍のマルチ戦略ファ

ファンド・オブ・ヘッジファンズ業界の現状

ンドです。主にアジア太平洋地域の株式を投資対象としてトレーディング的な手法を用い、レバティバリュー戦略、ロング・ショート戦略、またイベントドリブン戦略など、複数の戦略で構成されています。これらの戦略の組み合わせや適切なレバレッジによってリスク・リターンの最適化をはかり、絶対収益を追求します。2008年、2009年ともに、約20%のリターンを獲得しました。

HT Asian Alpha Amoeba Fund

HT Asian Alpha Amoeba Fundは、アジア（日本除く）・ヘッジファンド部門とアジア・株式ロング・ショート部門の2つの部門でアワードを受賞しました。当ファンドは、2005年4月に設定されたケイマン籍の株式ロング・ショート・ファンドです。日本を除くアジア地域の株式を投資対象とし、ボトムアップとトップダウンを用いたデュアル・アプローチで、小型株へ投資することも特徴の一つです。投資に際しては、主に企業の利益成長と株価水準に着目しますが、同時に流動性やモメンタムといったテクニカル的な点にも注目します。当ファンドは、2009年、30%以上の高いリターンを獲得しました。

Riley Paterson Asian Opportunities Fund

Riley Paterson Asian Opportunities Fundは、シンガポール・ヘッジファンド部門でアワードを受賞しました。当ファンドは、2007年6月に設定されたケイマン籍の株式ロング・ショート・ファンドです。日本を除くアジア地域の株式を投資対象とし、マクロ的なアプローチで運用され、通貨のポジションを取ることも特徴の一つです。長期的には、ロング・バイアス（ロング・ポジションがショート・ポジションより多いこと）、かつバリ

ユー投資志向ですが、弱気相場ではショート・ポジションを多用するなど、市場環境に応じた運用を行っています。当ファンドは、2009年、約14%のリターンを獲得しました。

最後に

アワードを獲得したヘッジファンドの共通点は、優れたパフォーマンスであることはもちろんですが、やはり運用者の業界での長い経験、またそれに裏打ちされた確固たる運用哲学があることです。弊社では、引き続き、徹底した調査活動を通じ、投資家の皆様に中長期的に安定したパフォーマンスをお届けできるよう全力を尽くしてまいります。

当資料は、スパークス・アセット・マネジメント株式会社がアジアの経済やヘッジファンド業界の情報を提供するために、スパークス・インターナショナル(香港)リミテッドの協力により作成したものであり金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。この資料は特定のファンドもしくは個別銘柄への投資勧誘を目的としたものではありません。当社およびスパークス・インターナショナル(香港)リミテッドとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものでなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・インターナショナル(香港)リミテッドに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式、公社債および不動産投資信託証券などの値動きのある証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本が保証されているものではなく、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等を要因として、基準価額の下落により損失が生じ、投資元本を割り込むことがあります。

ロング・ショート戦略のファンドは売建て(ショート・ポジション)取引を行いますので、売建てた株式が値上がりした場合、基準価額が下落する要因となります。また、ロング・ポジションおよびショート・ポジションの双方が誤っていた場合、双方に損失が発生するために、通常の株式投資信託における損失よりも大きくなる可能性があります。

また、ファンドオブファンズ戦略のファンドは、パフォーマンス連動債の発行体に対する信用リスクや、新興国市場への投資リスク、レバレッジの利用によるリスク等、ファンドオブファンズ戦略に特有のリスクも伴います。

上記は投資信託に係るリスクの一部を記載したものであり、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、お申込みの際は投資信託説明書(目論見書)および目論見書補完書面の内容をよくお読みください。投資信託は、預金商品、保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。登録金融機関は、投資者保護基金には加入していません。投資信託の設定・運用は、投資信託委託会社が行います。

追加型公募投資信託に係る費用について

スパークス・アセット・マネジメント株式会社における追加型公募投資信託に係る費用の上限は以下のとおりです。

●直接ご負担いただく費用

申込手数料	: 上限3.15%(税込)
解約手数料	: なし
信託財産留保額	: 上限0.5%

●投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用

信託報酬	: 上限1.995%(税込)
実績報酬(※)	: ファンドにより、実績報酬がかかる場合があります。

※実績報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

ご留意事項

上記に記載しているリスクや費用の項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、スパークス・アセット・マネジメント株式会社が設定・運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なります。

投資信託の取得のお申込みをする場合には、販売会社から投資信託説明書(目論見書)および目論見書補完書面をあらかじめお渡ししますので、必ずお受取りになり、投資信託説明書(目論見書)等の内容をよくお読みいただいた上、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

スパークス・アセット・マネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第346号
(社)投資信託協会会員 (社)日本証券投資顧問業協会会員